館山市地域公共交通網形成計画　－概要版－

計画策定の背景及び目的

館山市（以下「市」という。）は、千葉県房総半島の最南部に位置し、安房地域（館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町）の中では最も人口が多く、地域の中心都市としての機能を担っている。

近年では、国道 127 号線（館山バイパス）や国道 128 号線沿い等の郊外に大規模商業施設等が集積しつつあり、市街地の空洞化が進んでいる。

国立社会保障・人口問題研究所が発表した最新の将来人口推計によれば、2045 年の市の人口は３万３千人ほど（2015 年の約７割）になると予想されており、今後も少子高齢化が進む事が予想される。

さらに、市の公共交通を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、ダイヤ改正ごとに鉄道やバス路線が減便されるなど「利用者の減少・運行本数の減少・利便性低下・更なる利用者の減少」という負のスパイラルから抜け出せないでいる。

このような厳しい状況の中、路線バスの再編など公共交通体系の見直し、増加する高齢者や交通空白地などに住む住民の日常の足の確保対策に加え、観光需要の増加、計画されている医療機関や官公庁の移転の要素をしっかりと認識し、観光客や二地域居住者等交流人口の拡大や、インバウンド観光の推進等を踏まえ、自動車に頼らなくても訪れ、生活できるまちづくりを行う必要がある。

そこで、市では将来にわたり持続可能な公共交通網を作り上げ、観光などの地域特性を存分に発揮したまちづくりを行うことを目的に、まちづくりや観光、福祉など総合的な視点から、市域全体を総合的かつ面的に捉え、市にとって最も理想的な交通体系を考えていくための「マスタープラン」となる館山市地域公共交通網形成計画を策定する。

計画区域

館山市全域（必要に応じて近隣市町と連携）

計画期間

令和２年度～令和７年度（６年間）

■上位関連計画等における計画期間

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
館山市地域公共交通網形成計画		６年間									
南房総・館山地域公共交通網形成計画（仮称）			５年間								
総合計画	前期計画		後期基本計画（～R7）								
都市計画マスタープラン	20 年間（～R11）										
総合戦略		６年間									

基本理念と基本方針の設定

２つの基本理念を掲げ、次の７つの基本方針を設定した。

○基本理念

１．地域で支えあい、持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークをつくる
２．地域の魅力を満喫できるような観光二次交通を充実させることで、衰退傾向の公共交通を下支えする

※「★」印をつけた３つの基本方針：重点的に取り組む分野とする。

基本方針１	★市街地における回遊性の向上
基本方針２	隣接自治体との広域的な連携の推進
基本方針３	★主な公共交通空白地域における地域主体の交通システムの構築
基本方針４	★観光二次交通の整備・確保
基本方針５	高齢者等支援制度の確立
基本方針６	公共交通を利用しやすい環境の整備
基本方針７	公共交通により親しんでもらうための施策展開

地域公共交通に関する課題

■館山市の公共交通を取り巻く現状

【地域特性】
・人口は、減少傾向にあるが、世帯数においては増加傾向にある。それに従い世帯人員は減少している。
・通勤・通学での流入・流出は、隣接する南房総市が最も多い。
・館山市の公共・公益施設は、中心市街地である館山・北条地区に多く分布している。学校や子育て支援施設、地域コミュニティ施設などは、各地区に 1 箇所程度立地している以外はほとんど見られない。
・大型商業施設・医療施設は、郊外への立地が増え、館山駅周辺の空洞化が進んでいる。
・館山夕日桟橋では、毎年 2 月、3 月に東京と伊豆大島を結ぶ高速ジェット船が運航されるほか、客船にっぽん丸などの停泊、おがさわら丸の寄港など、海上交通やクルーズ船の誘致に力を入れ、「渚の駅」たてやまとともに、観光振興の一翼を担っている。

【公共交通の現状】
・市内の公共交通は、鉄道、路線バス、高速バス、タクシーのほか、公共交通を補完するものとして、スクールバス、一部の病院における患者送迎バスがある。
・鉄道は、北部から東部にかけて走っている JR 内房線上に館山駅、那古船形駅、九重駅の 3 駅があるが利用者は減少傾向にある。
・路線バスは、館山日東バス、JR バス関東が運行している。市内を走る路線バスは、年々利用者が減少している。また、平成 29 年から、JR バス関東洲の崎線において、「おどや館山海岸店」及び「渚の駅たてやま」に停車する「ショッピングライナー」(2 往復)が新設されたほか、平成 30 年 5 月から、同路線において、夜間の帰宅の足を確保するため、22 時館山駅発の「フライデーバス」の実証運行が開始された。

■地域住民ニーズ

【市民アンケート調査】
・70 歳代以上の約 4 割が自動車運転免許証を持っていないか、返納済である。
・約 7 割の市民が運転免許証を保有し、約 8 割の市民が自家用車を保有していることから、自家用車への依存傾向が強いといえる。
・最も多い外出行動は、「買物」、次いで「通勤」であり、その際の利用交通手段として「自家用車を自分で運転」が最も多い。
・普段の移動について「困ることはない」と回答している割合が約 8 割である一方で、「困ることがある」と回答している方は約 1 割存在している。
・路線バス利用者を利用すると回答した人は、全体の 4 分の 1 程度である。

【公共交通利用者利用者アンケート調査】
・路線バス利用者特性として、60 歳代～80 歳代以上が半数以上を占めており、主に「通院」「買物」目的で利用している。また、割合は 15%程度だが、通学の足としても利用されており、主に高齢者と学生の重要な交通手段となっている。
・広域移動手段の比較では、同一の所要時間、運賃だった場合、目的地までの移動手段に高速バスを選択する方が 73.3%と高い割合だが、満足度については不満の傾向にあり、中でも「運行本数」「運行時間帯」は不満度が高い。
・鉄道駅利用者特性として、「学生」の利用が最も多く、次いで「会社員・公務員」となっている。利用頻度も週に 5 日以上がほとんどと、通勤通学の足として重要な役割を担っている。

【観光客アンケート調査】
・観光客の約半数をファミリー層が占めている。利便性向上策として鉄道、バスの増便が支持されている。公共交通が利用しやすくなった際の転換可能性について、「利用したいと思う」が 53.1%となっており、観光交通の重要性が示唆された。

【高校生アンケート調査】
・普段の登下校時の交通手段では「自転車」利用が約 55%と最も多いが、雨の日の登下校時の交通手段になると「家族や知人の車で送迎」が普段の約 37%から約 67%まで増加する。鉄道で通学している生徒は全体の 4 割弱、路線バス通学者は全体の約 1 割である。

■地区別座談会

【座談会総括】
・地域ごとに、状況や課題が抱えている問題が異なることから、地域の事情を考慮し、ニーズを捉えていくことが求められている。
・館山バイパス（商業施設が多数立地するほか、館山病院や館山警察署もバイパスへ移転予定）へのバス路線の新設を望む声が多い。
・既存のバス路線は、通院や買物のニーズに合っていないという声が多い。
・地域の助け合いにより、住民が主体的に関わり移動困難者の移動手段を提供する地域も存在する。
・鉄道（JR 内房線）については、駅への利用者駐車場設置を望む声などがあった。
・タクシーについては、運賃が高くなかなか利用できない、館山中央交通廃業後、すぐに来なくなったなどの声があった。

■上位・関連計画

【第 4 次館山市総合計画】（H27）
【館山市都市計画マスタープラン】（H21）
【館山市総合戦略　館山市人口ビジョン】（H27）
【館山市総合戦略　館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略】（H27）
【観光立市たてやま行動計画】（H17）
【地域の魅力アップモデル事業】（H16）

地域公共交通の課題

課題 1
まちづくりや観光振興との連携による公共交通の活性化

課題 2
地域の実情に合わせた公共交通対策の取り組み

課題 3
過度な自家用車利用の抑制と利用促進による公共交通の維持

課題 4
将来の自家用車の運転に不安を抱えている高齢者の足の確保

課題 5
周辺隣接自治体との連携による広域的かつ一体的な公共交通ネットワークの確保

■事業者の現状

【交通事業者アンケート調査】
・事業者が抱える課題には、乗務員の不足が挙げられている。
【集客施設事業者アンケート調査】
・南房総市からの来院者もいるので他の市町村との連携もできるとよい
・移動や買い物で足腰が疲れてしまうので、ダイレクトに結ぶ仕組みが必要。

望ましい公共交通ネットワークのあり方

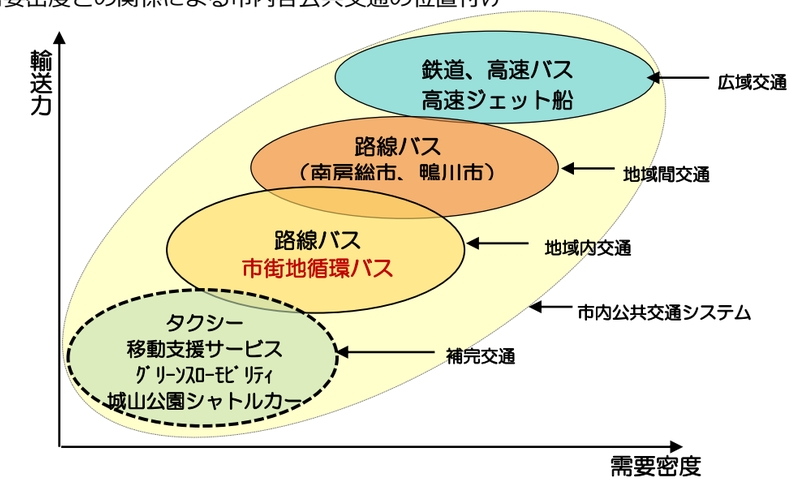
館山市の公共交通ネットワークの方向性は、既存の公共交通網を有効に活用し、広域交通（鉄道・高速バス）、館山駅から放射状に延びる地域間路線（路線バス）、地域内路線及び補完交通システムの４段階に機能分担を図る。

交通結節点としては、館山駅・“渚の駅”たてやまに加え、館山市役所、館山病院、安房地域医療センター、イオンタウン館山等を位置づける。また、既存公共交通ネットワークを基本としながら、これらを補完する新たな交通システムを導入し、公共交通機関相互の接続・連携により、館山市民の生活交通、更に来訪者の二次交通としても機能させ、利便性向上と効率的な運行を目指す。なお、公共交通ネットワークの検討に当たっては、生活圏を共にし、定住自立圏構想に共に取り組む予定の南房総市と緊密に連携し、検討・事業実施を図る。

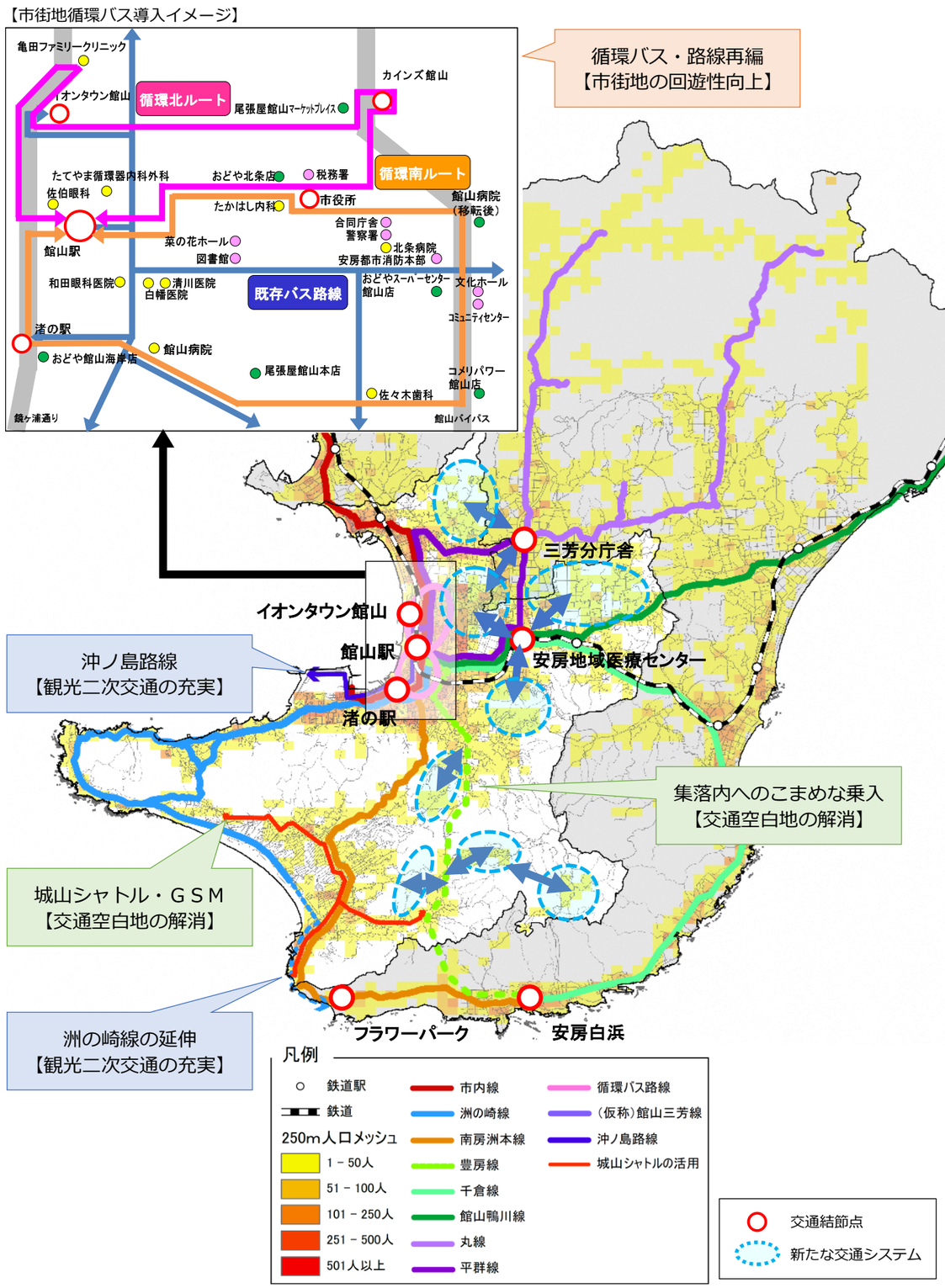
■地域公共交通システムの機能分担

機能分類		性格・役割	
広域交通	鉄道 高速バス 海上交通	○都市間連絡の骨格となる広域公共交通軸 ○通勤・通学、買物、観光など多様な目的に対応	○JR 内房線 ○高速バス ○高速ジェット船
市内生活交通	地域間路線	○南房総市・鴨川市への連絡及び市内の骨格放射路線 ○通勤・通学、通院、買物、観光など多様な目的に対応	○路線バス （市内線、南房州本線、豊房線、白浜千倉館山線、館山鴨川線、丸線、平群線）
	地域内路線	○西岬地区住民の生活路線及び観光路線 ○市内の地区間・拠点間を連絡し、分散する市街地の連携強化・一体化 ○広域交通への接続、地域間路線を補完	○路線バス （洲の崎線） ○新しい交通システム （市街地循環バス）
	補完交通システム	○鉄道・高速バス・路線バス交通等を補完し、主に高齢者・交通弱者のために少量個別輸送を担う移動手段。	○タクシー ○新しい交通システム （ｸﾞﾘｰﾝｽﾛｰﾓﾋﾞﾘﾃｨ） ○城山公園シャトルカー ○外出支援サービス等
交通結節点		○上記交通システムの連携拠点で、待合空間の整備・乗継ぎ情報の提供等の機能強化を図るべき拠点	○館山駅　○渚の駅 ○館山市役所　○館山病院（移転先） ○安房地域医療センター ○イオンタウン館山　等

■輸送力と需要密度との関係による市内各公共交通の位置付け



館山市地域公共交通網の将来イメージ



目標を達成するための実施施策とスケジュール

検討協議・実証運行
本格運行・導入

事業実施：赤字　連携協力：青字
運行受託：緑字

基本方針	施策の方向性	施　策	実施事業	2020	2021	2022	2023	2024	2025	実施主体
【基本方針１】 市街地における回遊性の向上	《施策の方向性１》 市街地内及び地域間をつなぐ公共交通の機能強化	①市街地循環バスの導入と既存バス路線の見直し	①循環バスの運行検討	→	→	→	- - -	- - -	- - - →	館山市・南房総市・交通事業者
			②市内線、洲の崎線のルート見直し	→	→	→	- - -	- - -	- - - →	館山市・南房総市・交通事業者
	《施策の方向性２》 鉄道駅や交通結節点の機能強化	②館山駅各施設の利便性向上 （駅前広場の再整備や待合空間整備等）	①駅前広場の再整備	→	→	→	→	→	→	館山市・交通事業者
			②待合空間の整備	→	→	→	→	→	→	館山市・交通事業者
		③集客施設等におけるバス待ち環境の整備	①集客施設等におけるバス待ち環境の整備	→	→	→	→	→	→	館山市・集客施設事業者・交通事業者
		④館山駅における鉄道・バス等との接続改善	①鉄道・バス等接続改善	→	→	→	→	→	→	交通事業者・館山市・南房総市
		⑤JR 内房線の無人駅の利活用	①那古船形駅の利活用検討	→	- - -	- - -	- - -	- - -	- - - →	館山市・鉄道事業者・民間企業・地域住民
			②郵便局との機能統合など、駅舎の利活用に向けた検討	→	→	→	→	→	→	館山市・鉄道事業者・民間企業・地域住民
【基本方針２】 隣接自治体との広域的な連携の推進	《施策の方向性３》 南房総市と一体となった公共交通ネットワークの機能強化	⑥平群線・丸線の見直し	①平群線・丸線の見直し	→	→	- - -	- - -	- - -	- - - →	館山市・南房総市・バス事業者
		⑦白浜千倉館山線の見直し	①白浜千倉館山線の見直し	→	→	- - -	- - -	- - -	- - - →	館山市・南房総市・バス事業者
		⑧高速バスの活用とパークアンドライド駐車場の整備	①「ハイウェイオアシス富楽里」以南の停留所相互間で乗降を可能とする制度の導入		→	→	→	→	→	バス事業者・館山市・南房総市
			②高速バスの鏡ヶ浦クリーンセンター停車と、同センターのパークアンドライド駐車場としての活用			→	→	→	→	館山市・バス事業者
【基本方針３】 主な公共交通空白地域における地域主体の交通システムの構築	《施策の方向性４》 地域が関わる新たな交通システムの導入	⑨住民ニーズに応じた豊房線再編見直しの実施	①豊房線再編見直しの実施	→	→	→	- - -	- - -	- - - →	館山市・南房総市・地域住民・バス事業者
		⑩ラストワンマイル対策のための新モビリティ導入検討	①グリーンスローモビリティの導入検討	→	→	→	→	→	- - - →	館山市・地域住民・バス事業者
			②城山公園シャトルカーを活用したコミュニティ交通の導入	→	→	→	- - -	- - -	- - - →	館山市・地域住民・バス事業者
			③南房州本線と新モビリティ・コミュニティ交通との連携強化	→	- - -	- - -	- - -	- - -	- - - →	バス事業者・館山市・南房総市
		⑪自動運転車両の導入研究	①先進技術開発の動向把握	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - - →	館山市・交通事業者
			②先進導入事例の調査研究	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - - →	館山市・交通事業者
【基本方針４】 観光二次交通の整備・確保	《施策の方向性５》 沖ノ島や海岸沿いのアクセス確保	⑫グリーンスローモビリティの活用による鏡ヶ浦回遊ルートの設定	①グリーンスローモビリティを活用した「鏡ヶ浦回遊ルート」の設定	→	→	→	→	- - -	- - - →	館山市・観光事業者等関係団体・バス事業者
	《施策の方向性６》 既存路線の観光客対応	⑬洲の崎線の土休日一部便の観光周遊バス化	①観光周遊バスの導入	→	→	→	→	- - -	- - - →	館山市・観光事業者等関係団体・バス事業者
			②南房パラダイスから相の浜間の運行復活	→	→	- - -	- - -	- - -	- - - →	館山市・観光事業者等関係団体・バス事業者
			③貨客混載の検討	→	→	→	→	→	→	館山市・観光事業者等関係団体・バス事業者
【基本方針５】 高齢者等支援制度の確立	《施策の方向性７》 高齢者等の外出支援推進	⑭高齢者等、自家用車を使えない人が気軽に外出できる環境づくりの推進	①タクシー運賃補助の導入	→	→	→	- - -	- - -	- - - →	館山市・交通事業者
			②民間事業者と連携した日用品移動販売の検討	→	→	→	→	→	→	館山市・交通事業者
			③運転免許返納者向け施策の周知強化	→	→	→	→	→	→	館山市・交通事業者
			④公共交通のメリットや健康面の効果に関する高齢者への周知	→	→	→	→	→	→	館山市・交通事業者
【基本方針６】 公共交通を利用しやすい環境の整備	《施策の方向性８》 キャッシュレス化の推進	⑮バスやタクシーにおける交通系ＩＣカードやQR コード決済等の導入	①キャッシュレス化の推進	→	→	→	- - -	- - -	- - - →	交通事業者・館山市・南房総市
	《施策の方向性９》 分かりやすい運賃制度の導入	⑯ゾーン制など、分かりやすいバス運賃体系の導入	①分かりやすいバス運賃体系の導入	→	→	- - -	- - -	- - -	- - - →	バス事業者・館山市・南房総市
	《施策の方向性１０》 ユニバーサルデザインの導入	⑰バスやタクシー車両のバリアフリー化促進	①バリアフリー化促進	→	→	→	- - -	- - -	- - - →	交通事業者・館山市・南房総市
		⑱案内表示等の多言語化推進	①多言語化推進	→	→	→	- - -	- - -	- - - →	館山市・南房総市・交通事業者
	《施策の方向性１１》 公共交通に関する情報発信の強化	⑲Google Map 等におけるバス・鉄道時刻等の情報発信強化	①情報発信強化	→	- - -	- - -	- - -	- - -	- - - →	館山市・南房総市・千葉県・交通事業者
		⑳MaaS に関する取組着手	①MaaS 取組推進	→	→	→	→	- - -	- - - →	館山市・南房総市・千葉県・観光事業者等関係団体
		㉑南房総市と連携したバス路線マップの製作	①バス路線マップの作成			→	- - -	- - -	- - - →	館山市・南房総市・交通事業者
	《施策の方向性１２》 公共交通の通学利用促進	㉒通学時の公共交通・スクールバス活用推進	①小中学校における路線バスの活用促進	→	→	→	→	→	→	館山市・館山市教育委員会・交通事業者
			②スクールバスの活用検討	→	→	→	→	→	→	館山市・館山市教育委員会・交通事業者
			③高校生や保護者への公共交通利用呼びかけの実施	→	→	→	→	→	→	館山市・館山市教育委員会・交通事業者
【基本方針７】 公共交通により親しんでもらうための施策展開	《施策の方向性１３》 モビリティ・マネジメントの実施	㉓官公庁でのノーマイカーデーの実施	①ノーマイカーデーの実施	→	→	→	→	→	→	館山市・交通事業者
		㉔公共交通利用のメリットに関する市民への普及活動実施	①市民への普及活動実施	→	→	→	→	→	→	館山市
	《施策の方向性１４》 家族で公共交通に親しめる施策の実施	㉕家族で楽しめるバスや鉄道の乗り方教室の開催	①乗り方教室の開催	→	→	→	→	→	→	館山市・南房総市・交通事業者
		㉖ファミリー向け割引制度等の導入	①ファミリー向け割引制度の導入	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - - →	館山市・交通事業者